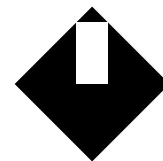


# 公認会計士稲門会



## 「この1年の活動のご報告」



ふじた せいじゅん  
藤田 世潤

(1976年3月社会科学部卒業)

### 改元、ラグビー、台風、そして新型コロナウイルス

5月に平成から令和に改元された2019年4月から2020年3月までの一年は、感動と悲しみのまじりあった一年でした。TBSが前景気を兼ねて「ノーサイド・ゲーム」を放映しながらも、成否の程が半信半疑だったラグビー・ワールドカップが、日本チームの快進撃とともに大変な盛り上がりを見せ、何と年間最高視聴率を獲得するまでの大成功を収めました。それまでの16年間の軌跡を日本ラグビーフットボール協会監事の袖山裕行さんが寄稿してくれました。また、帝京一強時代に陰りが見え始めた大学ラグビーでは、本年1月の新国立競技場での大学選手権決勝で、宿敵明治を破って、早稲田が11年ぶりに大学日本一に輝きました。

ラグビーファンの早稲田OBにとっては至福の一年でしたが、一方でその間台風15号、19号によって甚大な被害を受けました。そして、年明けからの新型コロナウイルスの全世界的な流行によって、史上初めて確定申告の期限が全国一律で

延長されるなど、いまだかつてない危機的状況の中で年度末を迎え、ついには4月7日に緊急事態宣言が発せられ、本稿執筆時には5月末まで延長されています。3月決算を中心に会員諸兄も決算業務に監査業務に奮闘・工夫の日々を送っておられることと思います。

早稲田大学においても、最も大事な行事である卒業式と入学式が中止になり、春学期の授業が5月11日から、それも原則としてオンラインで開始されるという前代未聞の事態になっています。

### この1年の活動のご報告

#### 1. 定期総会と懇親会の開催

2019年7月9日に、大隈会館の201・202号室で開催された定期総会で、会務報告、会計報告、事業計画等が原案通り可決承認されました。総会後の懇親会では、大学理事、奨学課長からのご挨拶を頂戴するとともに、早稲田の会計学関係の先生方や他大学の公認会計士団体の代表等を来賓として多数お招きしました。今年は、大西寛文さんと種田ゆみこさんの大阪からの出席も含めて、例年以上の参加者を得て、正門前の東寿司での二次会まで大いに盛り上がりました。今年は、鳥根の竹下本店の銘酒「都の西北」と早稲田大学周辺商店連合会の「早稲田ビール」の二本セットをご来賓へのお土産として用意しました。

#### 2. 役員会の開催

2019年6月5日、9月4日及び12月4日に、事務局である新創監査法人の会議室で役員会を開催しました。

### 3. 懇親行事

#### (1) 懇親会

定期総会や役員会の後に懇親会や忘年会を開催しています。役員会後の懇親会は、このところ、早稲田界限にいるかと錯覚しそうな店構えの銀座の中華料理屋で催されています。12月4日の役員会後の忘年会では、長谷川恵一教授と奥村雅史教授にもご参加いただき、公認会計士と大学とのコラボレーション等の活発な意見交換がなされました。たっぷり飲んでしっかり酔っても、どうしても会計や監査の話になってしまうようです。

#### (2) ゴルフ

ゴルフでも存在感を見せる当会ですが、近野博キャプテンのご尽力により、過去多くの好成績を修めています。今年度は、9月7日に茨城GC西コースでCPA早慶戦を開催し、当然に当会が勝利し、通算対戦成績を28勝10敗としました。11月3日の公認会計士稲門会ゴルフ会は取手国際GCで開催できましたが、十月会（公認会計士の大学対抗戦）は台風19号の影響で中止になりました。なお、昨年開催したCPA早明戦は都合により今年は開催されませんでした。

### 4. 大学・校友会関係

#### (1) 商学部の「税務会計論」への講師派遣

2019年度の商学部の「税務会計論Ⅰ」の講師を昨年に引き続いて堀秀行さんが、「税務会計論Ⅱ」の講師を新たに石毛章浩さんが担当されました。商学部からの要請によって、当会の会員が継続して講師を務めてきており、2年交代でお願いしています。

#### (2) 商学部の「基礎会计学」への講師派遣

商学部の1年生を対象とした必須科目である「基礎会计学」の授業では、外部専門家による講演が春学期、秋学期ともに二コマ設けられています。商学部からの要請によって、「社会における公認会計士」という演題で湯川喜雄さんが、「AI

時代の公認会計士」という演題で茶田佳世子さんが講師を務めました。湯川さんはとにかく会計嫌いにならないように、茶田さんはコンサルタントとして出来るだけ多くの事例を紹介するように講演されて、ともに学生に好評で高い評価を得ました。

#### (3) 商学学院×日本公認会計士協会

##### 「公認会計士制度説明会」に参加

2019年4月22日に商学学院のご協力のもと、日本公認会計士協会の公認会計士制度説明会が、11号館で開催されました。日本公認会計士協会東京会広報委員会委員の川渕純治さん（2003年商学部卒）が公認会計士制度の説明を、芋川千晴さん（2019年商学部卒）が合格体験談を話されました。長年の受験生活を実らせた川渕さんと在学中合格の芋川さんの合格体験談はとても対照的で、参加した学生にとって大いに参考になるものでした。なお、藤田も公認会計士稲門会について話しました。

#### (4) 早稲田大学校友会ゴルフコンペに参加

2019年11月3日に久邇CCで開催された早稲田大学校友会のゴルフコンペに、公認会計士稲門会チーム（近野博さん、小川明さん、有賀美典さん、脇一郎さんの精鋭チーム）も参加しましたが、残念ながら連覇を逸しました。このコンペは全国から、44の校友会団体、213名の参加者があり、全27ホールからフル・ショットガン・スタートという他に例を見ない大規模なものです。

#### (5) 「総長招待 指定寄付奨学生の集い」に出席

2019年12月13日に大隈ガーデンハウスで「総長招待 指定寄付奨学生の集い」が開催され、藤田が出席し、奨学生の裴帥君（中国）、キム キョンミン君（韓国）、彭樂家君（台湾）と親しく交流しました。奨学生はみんなとても優秀で、勉強意欲にあふれており、いつも彼らの語学力に驚嘆します。なお、キム君は兵役に就く予定で2020年は休学するとのことでした。

#### (6) 早稲田大学会計研究科第14回学位授与式は中止

毎年3月25日の大学院会計研究科の学位授与式に、公認会計士稲門会会長が招待され、祝辞を述べてきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症のため全学の卒業式が中止になりました。

#### 5. 奨学金給付事業—公認会計士稲門会奨学金の給付

公認会計士稲門会では、毎年アジアからの私費留学生に対して一人50万円の奨学金を支給してきました。今年度は、3名の留学生に計150万円の奨学金を給付し、過去29年間での支給実績は、延べ114名、累計5700万円になっています。この奨学金は田中祐輔さんと大野高正さんが中心となって、会員に広く寄付を呼びかけて、継続してきたもので、大学OBの公認会計士会ではおそらく唯一のものだろうと思われます。改めて会員諸兄の長年のご協力に深謝申し上げます。

#### 6. 公認会計士試験合格祝賀会の中止

2020年4月2日に早稲田大学公認会計士講座との共催で、公認会計士試験合格祝賀会を予定しましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して、誠に残念ながら中止いたしました。楽しみにしておられた会員や合格者の皆様には大変申し訳ないことになりました。この原稿を書いている時点でも終息の見通しが立っておりませんが、将来何らかの企画が立てられればと思っています。

#### 7. 他大学の公認会計士会等との交流と早慶役員懇談会

他大学の公認会計士会の方を総会にご招待するとともに、他大学の公認会計士会の総会にもご招待を受けて交流を深めています。今年度は公認会計士三田会の小見山満会長の呼びかけで、2019年11月15日に慶應義塾三田キャンパスで早慶役員懇談会を開催しました。早稲田から21名、慶應義塾から18名の役員が出席して、今後とも早慶の交流を継続して深めていくことを確認しました。たまたま隣の催しに来ておられた石破茂議員からサプライズでご挨拶を頂戴しました。

#### 引き続き、よろしく願い申し上げます

なんだかんだ言たって、やっぱりワセダが好きで、群れたがりはいらないけれど、でもふと懐かしくなったら、是非とも総会にご参集いただき、三七21回「ワセダ、ワセダ、ワセダ、・・・」と声高らかに校歌をご一緒しましょう。それにしても、ラグビー・ワールドカップは、まるで海外で観戦しているようで最高だったなあ。ハーフタイムのKARAOKEでスタジアム全体が大合唱になったスイート・キャロライン。その一節に“Good times never seem so good”・・・。

(2020年5月6日)

---

## 公認会計士稲門会ホームページについて

公認会計士稲門会では、2012年10月にホームページを開設いたしました。是非、ご覧ください。  
URL [www.cpa-tomonkai.jp](http://www.cpa-tomonkai.jp)

公認会計士稲門会は、会員相互の親睦、情報交換の場として会員がボランティアで運営しております。総会、ゴルフコンペ、忘年会等の親睦や合格祝賀会の開催等の後進育成をしております。また、特筆すべき事業としてアジアからの留学生

に対する支援と母校への講師の派遣を行っております。母校とは「士学協同」し高い評価をいただいております。

コンテンツが、不十分ですが今後充実させていただきますので、よろしく願いいたします。会報発行費、通信費等の費用は会費によってまかなっております。HOME⇒入会案内⇒入会登録され、会費納入いただけたら幸いです。

## 「公認会計士稲門会奨学事業」 －令和元年度奨学事業報告－



(奨学事業委員会委員長)

小西 彦衛

(1969年 商学部卒業)

奨学事業を支えていただいている皆様に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。本事業は奨学資金をお寄せいただいている会員の皆様のお力によって運営している事業です。

新型コロナウイルスの環境下で学生諸君の生活にも困難が及んでいる状況から本学は学生の生活支援策を講じ、その実施のために学生部はじめ関係部署の皆さんが奮闘しています。

この状況によって外国人留学生には留学先（日本）での異例の生活環境に加えて母国と往来できないため、難儀していることと思います。

毎年12月に開催される「総長招待 指定寄付奨学生の集い」では、勉学に励んでいる奨学生と

歓談して、有為な人材を育む奨学事業の意義を実感します。アジア地域からの留学生を支えることは、近隣諸国との友好親善のためにも有意義なことと存じます。本会報に奨学生の寄稿文を掲載しています。

奨学資金は、“広く軽く”を方針として、皆様に無理のない拠出をお願いしています。

多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

### 寄付の方法および取扱い

奨学資金は早稲田大学への寄付金として納付していただき、総長名の領収書と所得税の寄付金控除にかかる証明書が発行されます。

寄付金の申込方法は2つあり、Webサイトまたは専用振込用紙です。

早稲田大学のWebサイトから常時寄付申込みができます。[早稲田 寄付] **検索** で寄付トップ画面に入ります。寄付申込みフォームにインプットする際に、「寄付の種類」は「奨学金」を選び、「指定先」は「公認会計士稲門会奨学金」を選びます。支払方法はクレジットカード又はペイジー（インターネットバンキング決済）です。

専用振込用紙で大学の銀行口座に振り込みます。

同行間の振込手数料が無料です。公認会計士稲門会の会費の振込口座とは異なりますのでご注意ください。



## 令和元年度の事業実績

## 1. 奨学金の給付状況

大学より次の3名を推薦いただき、各人に50万円を給付しました（学年は給付時）。

キム キョンミン	社会科学部	2年	韓国
ペン ヤオジャ	商学研究科	1年	台湾
裴 帥	環境・エネルギー研究科	1年	中国

## 2. 奨学事業収支年度別一覧（単位：万円）

年 度	H3～H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	累 計
寄付金収入 (寄付者数)	5,307.5 (1,645名)	107.5 (43名)	163.5 (48名)	148.5 (42名)	151 (49名)	5,878 (1,827名)
奨学金給付額 (奨学生数)	5,000 (100名)	200 (4名)	200 (4名)	150 (3名)	150 (3名)	5,700 (114名)
資金繰越残高	307.5	215	178.5	177	178	

## 3. 令和元年度寄付者芳名（順不同・敬称略） 令和2年3月31日現在

藤田 世潤	渡辺 俊之	近野 博	鈴木 豊	勝島 敏明	奥山 章雄
飛永 信雄	内田 善三	小林 晟祐	佐藤 正典	猪股 世紀	里村 豊
西山 隆司	関根 愛子	高井 宏司	水野 義雄	黒沼 憲	山口 俊明
山田眞之助	上野 紘志	尾崎 隆昌	石原 裕	小林 正樹	金田 賢二
七松 優	長峯 徳積	吉村 智明	杉田 純	渋谷 道夫	久保 直生
岡野 雄次	松下八寿彦	小暮 和敏	堀 秀行	稲葉 武彦	伊勢 利一
桑野 忠雄	津田 良洋	石田 清絵	波多 康治	堀内 三郎	湯川 喜雄
水谷 太郎	鴛海 量良	福田 安孝	倉橋 暁	袖山 裕行	小西 彦衛
匿 名					以 上

## 登録住所及び登録メールアドレス変更の際のご連絡のお願い

会報を登録住所に送付し、メール・ニュースを登録メールアドレスに配信しています。転居や事務所移転等に伴う登録住所やメールアドレスの変更がある際には、公認会計士稲門会事務局宛のご連絡（[info@cpa-tomonkai.jp](mailto:info@cpa-tomonkai.jp)）もしくはホームページ（<http://www.cpa-tomonkai.jp/>）の「お問い合わせ」からご連絡頂くようお願いいたします。ホームページのお問い合わせは、HOME⇒お問い合わせ、からもアクセスできます。

## 会費納入のお願い

今年も会費納入の季節となりました。同封致しました振込用紙で御振込頂ければ幸いです。なお、日本公認会計士協会準会員の方は、印字されている金額を3,000円にご訂正のうえ御振込頂けます。また、ご自身の会費納入状況をお知りになりたい方は、会計担当の副会長もしくは常任幹事にご連絡下さい。

公認会計士 6,000円 日本公認会計士協会準会員 3,000円  
 (振込先 郵便振替口座番号 00170-2-163893 口座名 公認会計士稲門会)

## 「RWC開幕前日にウェブ・エリス・ カップと」



袖山 裕行  
(1980年 法学部卒業)

昨秋、日本で開催された第9回ラグビーワールドカップ(RWC)2019大会は想定を遙かに上回る盛り上がりの中、多くの国民に感動を与えることが出来たと思います。しかし、その準備が始まった03年から大会までは険しい道のりでした。私は02年、数十年ぶりに街で再会した高校時代のラグビー部の先輩に「日本ラグビー協会(JRFU)で財務を手伝ってくれ」との依頼(命令?)を受け、正にその翌年から16年RWCに関わってきました。

### (ブルームフォウンテンの悪夢)

時は95年に遡ります。この年、RWC南アフリカ大会で日本代表は、NZに17-145という国辱的敗戦を喫します。以前人気を博した早明戦、同志社・釜石など日本ではラグビー=アマチュアリズムが当たり前でした。しかし世界のラグビーは96年南半球のスーパーラグビー創設から一気にプロ化に進みます。日本ラグビーはその潮流に乗り遅れ、93年から始まったサッカーJリーグ人気にも押され、競技人口が減少し続けます。英仏など強豪国からの試合オファーもなくなり、地上波放送などが激減するなど国民の関心が薄れていきました。

### (RWC日本大会招致活動)

そのような中、元総理大臣の森喜朗元ラグビー協会会長を中心にRWCを日本に誘致しようという話が出てきました。森喜朗元会長の著書によれば、やはり早大ラグビー部OBで当時外務省国連政策課長だった奥克彦氏の情熱に応えた、特に03年奥氏がイラクで銃撃死したことで「奥君の代わりにRWC招致を成功させたい」とあります。

森元会長を中心に目指したのはRWC2011大会です。私も末席ですが招致委員メンバーとなり、議員連盟・官界・財界の方々とも招致を目指しましたが、05年その夢は僅差でNZに破れてしまいます。元々IRB国際ラグビーボードの中には、「ラグビーはティア1と呼ばれる英連邦を中心とする強豪国内が中心で行えばよい」との意見が強いとも聞いています。

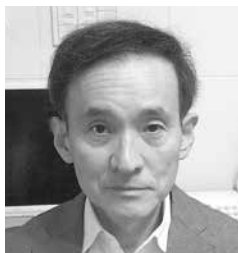
しかし、森元会長はあきらめず、4年後の招致に再度挑戦すると宣言しました。ちょうどその頃、IRBもラグビーの将来を見据えグローバル化に舵を切る気配を見せます。折しも2016リオ五輪の実施種目にラグビーを入れる期待もあったのでしょう。皆の尽力により、09年にRWC日本大会招致が決まります。ただし、15年にイングランド大会の後の19年です。

### (RWC2019大会までの道のり)

RWC大会の開催運営経費には協賛金や放映権料が使えないルールになっています。つまり基本的に入場料収入が命です。しかし、大会の認知度は一向に上がりません。特に30代までの若者特に女性の興味が薄く、JRFUの財務状況も悪化していきます。そして15年に国立競技場問題が生じます。それまで開会式や決勝などRWCを新国立競技場のこけら落としと考える集めできると期待しましたが、当時のザハ・ハディド案が却下されたことで、新国立競技場は大会に間に合わなくなったのです。これは衝撃でした。国際ラグビーボードも日本での開催を危ぶむ声が強くなり大ピンチとなります。ここで奇跡が起こります。そうです。RWC2015大会で南アフリカを破ったブライトンの奇跡です。これにより(五郎丸人気にもあり)少なくとも一時的には国民の関心が集まり、漸くRWC日本大会開催を確信できました。

昨年9月に開幕したRWCで日本代表は予選4戦全勝で初期の目標であったベスト8進出を果たしました。チケット販売率99.3%、最高視聴率スコットランド戦の53.7%、ファンゾーンの総入場者数RWC過去最高の114万人など驚異の数字です。9月28日大会直前まで世界ランキング1位だった強豪アイルランド戦で後半、福岡選手が左隅に逆転トライした瞬間、恥ずかしながら私も感極まり、16年分の涙をエコパスタジアムに流しました。

## 「恩師そして友人への感謝」



島崎 主税  
(1980年 商学部卒業)

私が当時の二次試験に合格し、監査法人に就職してから今年で約40年になる。現在は、税務業務も行いつつ、某大学にて、学生や院生を相手に監査論の講義をしたりもしている。そうした現在に至るまでを振り返ってみると、大学時代の恩師、そして一人の友人に感謝しなければならないと改めて思うところである。

## 恩師への感謝

大学時代は、檜田信男先生（中央大学名誉教授。以下「先生」）のゼミに所属していた。先生の監査論の特質は、すべての監査機能を、アカウントビリティとの関係で位置付けられる点にあるが、そのことを理解できたのは、ずっと後のことであった。

先生には卒業後も、ご自宅にお邪魔する形でご指導頂いていた。先生は、「会計監査以外の得意分野を一つは持ちなさい」とかねがね言われていた。しかしながら、目指すべき分野が、なかなか見つからなかったため、ある日のこと、「どういう分野を目指したらよいのでしょうか」と思い切ってお聞きしてみた。それに対し先生は、「あなた・・・内部監査をやってみなさい」と即答され、「もし内部監査をやるならば、青木茂男先生の『近代内部監査』を読むことから始めなさい」と言われた。貴重なご助言であったので、数日後、会計士協会の資料室に行き、「近代内部監査」の貸出を受けた。読後、内部監査に興味を覚え、追加の

文献に当たろうと思い立ち、先生が執筆された論文を集め読ませて頂いた。学術論文であるため、理解するのに四苦八苦したが、諦めずに読ませて頂くうちに、内部監査とはどういうものであるのかが徐々に見えてきたことを覚えている。

その後、監査に関する論文等も執筆できるようになり、平成15年には、日本内部監査協会から青木賞を、また平成19年には、日本監査研究学会から監査研究奨励賞を頂いている。すべて、先生の貴重なお言葉、ご助言のお蔭であるのは、言うまでもないことである。

## 友人への感謝

大学二年の冬、そろそろ二次試験の勉強を始めなければと思い、某専門学校に通い始めた。この学校はスパルタ式で有名であり、講義についていくのも大変であった。そうした大事な時期に、私は、所属していた会計学会で、春合宿委員長に任命されてしまった。委員長は、定期的にかかれる幹事会に出席しなければならないのであるが、その日が、専門学校の講義の日と重なることになってしまった。しかも悪いことに、その日の講義内容は、簿記論の山である特殊商品売買であった。幹事会の欠席まで考えていたところ、やはり会計学会に所属していた一人の友人が、「幹事会は休めないよな・・・俺が特殊商品売買のレクチャーをしてあげるから、俺の下宿に来なよ」と言ってくれ、自分の下宿で、教えてくれたのであった。この友人は、その時点で既に日商1級にも合格しており、当時の私からみれば、紛れもなく雲の上の存在であった。

ちなみに、この友人とは、現在、公認会計士稲門会で会報担当をしている松下君である。もし、松下君が、大切な自分の勉強時間を割いてまで、レクチャーしてくれていなかったならば、二次試験の合格も何年か先になっていたであろう。

恩師、そして松下君とは今でもお付き合いをさせて頂いている。私のことを方向付けて下さった恩師、そして私を助けてくれた松下君に対し、改めて感謝をする次第である。

## 「卒業して20年でようやくわかった縁の大切さ」



金子 良太

國學院大學 教授

(1999年 商学部卒)

2001年 商学研究科修士課程修了

2004年 商学研究科博士課程満期退学)

## 1 会計との出会い

商学部を卒業して、20年が経ちました。私と会計との出会いは、早稲田実業学校高等部でした。当時は、早稲田大学のすぐ近く、鶴巻町にあった高等部で、私はちょっとしたきっかけから中等部から商業科へ進学し、高校1年生で初めて簿記と出会いました。中学までの勉強とは違う全くの新しい分野で、親切な高校の先生と出会えたことも幸いして、その後簿記の学習を進めていきました。

## 2 学部時代

学部時代には、当時の公認会計士第二次試験に合格することができ、合格祝賀会へ参加したのが公認会計士稲門会との出会いでした。大学では、公認会計士講座の講師も務めることができ、その後の合格祝賀会のお手伝いもさせていただきました。今回の執筆の機会をいただけたのも、稲門会で仕事のお誘いを頂き、一緒に監査の仕事をさせていただいた先生からのお話で、縁の大切さを実感しています。

## 3 大学院生時代と公会計との出会い

大学院生時代には、学部時代とはかなり雰囲気の異なるところで戸惑うこともありましたが、研究に行き詰まっているところで加古先生・大塚先生から非営利組織会計へのお誘いをいただきました。それが、私の現在の政府会計・非営利組織会計の研究に結びついております。当時は、公会計は注目される分野ではありませんでしたが、現在

は会計士業界でもその注目度は大いに高まっています。このような分野へ導いていただいた先生方には、本当に感謝しております。ここ数年間も、恩師である大塚先生や川村先生とほぼ毎月早稲田大学で科研費の研究会を開催しています。

## 4 現在の職場

現在は、東京都渋谷区にある國學院大學で、財務会計、公会計、監査等の教鞭をとっております。2020年の箱根駅伝では、母校を上回る健闘を見せてくれました。國學院大學では、公認会計士を目指す学生も限定的です。また、昨今は大学生の「会計離れ」が叫ばれております。会計専門職を目指さない学生にも積極的に会計の授業を履修してもらい興味を持ってもらうこと、会計と経済・経営との関わりを常に感じさせるような授業内容とすることを心がけています。また、担当するゼミでは私が学部時代に所属したゼミの後輩がいる会社に入社する学生が複数出るなど、ここでも縁の大切さを感じます。

## 5 早稲田大学での授業

ここ数年、早稲田大学商学部と社会科学部でも簿記の授業を担当させていただきました。知的好奇心の強い学生を前にした授業は大変刺激的で、私自身の成長につながったと実感しています。その後、授業の受講生であった学生と政府関係の仕事で一緒に働く機会もあり、貴重な縁がたくさんできることもこの仕事の醍醐味です。

## 6 会計実務

また、実務では、研究内容に関連して、学校法人(幼稚園)監査、東京都特別区での包括外部監査、政府機関での勤務の機会もいただきました。包括外部監査の仕事で一緒にさせていただいた近所に住む先輩が早稲田実業・早稲田大学出身であることも多かったです。

最後になりましたが、公認会計士稲門会がさまざまな縁のきっかけとなるような、「ゆるい」出合いを創出する場で有り続けることを期待いたします。私も社会に貢献できる公認会計士・研究者となれるようにがんばりますので、今後とも宜しくお願いいたします。



## 「日本留学の経験」

ベン ヤオジマ  
彭 樂家

(商学研究科 2021年卒(予定))

この度は公認会計士稲門会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年までの学業成績をこのようなかたちで評価していただいたこと、稲門会の皆様には心から感謝申し上げます。

「何故に日本にやってきたの」というのは留学生である私に対するよくある質問でした。子供の時から日本のアニメや日本の飲食文化に触れ続けたのは一つの理由かもしれませんが、最も大きなきっかけは大学時代での多言語交流の経験ではないかと思いました。私は高校時代から、日本語を勉強するようになり、大学ではさらに言語的かつ文化的背景の異なる方々と交流する機会が多くなりました。その中で、昔から親しみを感じてきた日本文化に対する理解を深めたいと思い、大学二年生の時、日本留学を決心しました。そして、留学向けの二年計画を立て実行しました。

二年間で私は勉強時間とアルバイトを確保しながら、国際的なイベントに参加し、積極的に文化的背景の異なる人々と交流しました。その結果、100万円の資金を貯め、200人以上の外国人と交流することができました。そして、金銭面、言語面でも留学水準に達し、岡山大学へ1年間留学できました。その経験で、異文化理解が深めただけでなく、研究室でグローバル企業について勉強した上で、多国籍企業やクロスボーダーの業務多角化にも触れました。より企業の経営戦略や提携関係について勉強したいと思い、商学の領域でトップレベルの早稲田大学へ進学しようと決めました。

早稲田大学では業界において数年間の実務経験のある方々もいれば、何十年も経営課題に取り組む研究者もいらっしゃいます。このような環境で、

商学領域の知識と経営課題を解決する醍醐味を味わうことができる場所は早稲田大学の魅力だと思い、経営戦略専攻を選びました。その中で、私は主に企業はどのように戦略を立てるか、競合他社との関係を分析するかについて、研究を行いました。その具体例の一つとして、私は会社間の連携関係はがどのように次の競争関係に影響するかについて発表しました。その経験で、企業は連携強化や多角化による生産チェーンや業務の拡大、相関市場の参入など新産業に参入することなど新たな事業を所有し、事業細分化することや部門を増加させるということについて勉強しました。

早稲田大学商学研究科に入学してから早くも2年目になり、これからの1年でより日本留学を充実させるためにできることは何かを考えるようになりました。三年前に交換留学で岡山大学へ行ったことがあります。東京とはまったく異なる体験や刺激をこの一年間で体感しました。東京では都会ならではのスピード感と賑やかさもありますが、そのなかで特に印象に残ったのがある会計事務所での長期インターン生として新規事業立ち上げの経験でした。

昨年私は、留学生向けの長期インターンシップに参加させていただく機会があり、会計事務所での5か月間多国籍の方々とともに新規事業立ち上げの業務に携わりました。その時、慣れない職場かつ母国語ではない環境でプロジェクトを進めるだけでなく、実際に提案する必要がありストレスが大きかったです。しかし、5か月間のインターンシップが終わって一度振り返ってみると新たな環境に対する新しい価値観と体験しなかった実務経験が身について成長したと実感しました。

最後に、私は大学や大学院での経験で異文化交流を促進することで、異なる文化の掛け橋として理解を深めることができると強く実感しました。これからも、個人的にも言語交換などの交流機会を設け、日本人との交流を増やして、日台の関係に寄与したいです。そして、両親をはじめとするたくさんの方々を支えられ勉学に励むことが出来ており、そのことを忘れず感謝の気持ちを胸に残りの大学生活でも新たな経験を大切に、精進してまいります。

## 「日本留学にて私の過去・現在・将来」

ハイスイ  
裴 帥早稲田大学理工学術院  
環境・エネルギー研究科

紙屋研究室（電動車両研究室）M2

(2021年3月修士卒、博士課程に進学(予定))

早稲田大学理工学術院、環境・エネルギー研究科、紙屋研究室（電動車両研究室）修士2年在学している裴帥と申します。2019年度の公認会計士稲門会奨学生として採用していただき、私の生活と研究に対して甚大なご支援をいただきました。最も大変な時期を乗り越えることができました。再び感謝を申し上げたいと存じます。

私は中国・遼寧省・阜新市で生まれ、高校を卒業して初めて日本へ留学に参りました。幼い頃から、自動車、航空機、ロケットなどの動的な機械に関する興味が強まってきて、高校生のおきに、自動車部に入って自動車に関する学生イベントに参画したこともあります。その際に、自動車の中に应用されている電気製品は韓国のSamsung社の製品であるため、Samsung社に興味を持って調べていきました。Samsung社の起業者である李健熙（イ・ゴンヒ）さんは、もともと韓国留学生として早稲田大学第一商学部（現早稲田大学商学部）で留学したことがありました。そこで、「高校を卒業したら、早稲田大学で自動車、飛行機などを勉強できれば必ず幸せだよな〜」ということは常に頭の中で浮き現れていました。それは、私と早稲田大学とのご縁が初めて結びつけるだろうかと思っております。そこで、高校を卒業した後、日本へ参り、入学試験を攻めて早稲田大学基幹理工学部学系2に入学し、二年生のときに機械科学・航空学科（現機械科学・航空宇宙学科）に進級しました。四年後、学部を卒業し、環境・エネルギー研究科紙屋研究室に入研し、プラグインハイブリッド自動車（PHV）に関連す

る研究に着手しました。

現在、紙屋研究室にて「PHVの性能を包括的かつ簡易的に評価できる新たな手法の提案と車両設計・運用指針構築」という研究テーマに精力的に取り組んでおります。近年、環境・エネルギー問題対応のための自動車の電動化が進められています。PHVは、外部充電された“電力”とガソリン・軽油などの“燃料”の2つをエネルギー源とした車両です。設定されたある最低レベル充電状態まで電力主体で走行するCharge-depleting（CD）モードとなり、その後、燃料のみを消費し走行するCharge-sustaining（CS）モードに切り替わるのが一般的となっています。しかし、当然車両の環境性能は両モード間で大きく異なるため、前者から後者へモード移行して走行する場合、始点から終点までの平均性能は始点終点間距離（もしくはCDモード走行距離とCSモード走行距離の比）により大きく変化することになります。また、CDモードにおいて、純粋モーター走行（All-electric, AE制御）とエンジン併用ブレンド走行（Blended, BLD制御）の両方式が存在し、制御方式も多岐にわたるため、2種のエネルギーと2種の走行モードの影響を包括的に考慮した車両性能評価は複雑を極めると考えられています。また、車づくりにおいてもCD電費やCS燃費等の単独車両性能だけでなく、この包括的観点から見た車両性能向上が必要と言えます。今年度、この研究において、私の注目していることは、PHVがCDモード走行する際、対象とするBLD制御のエネルギー消費率が良好か否かを簡易的に判断できる指標（BCPI, BLD Control Performance Indicator）の構築です。そして、BCPIの指標値によってBLD制御の様々な制御パラメータの最適解を求め、PHV動力システムの最適化を行います。研究成果を活用し、人類低炭素社会と省エネルギーに貢献できないかと考えております。

「理学は真理探求のための学問であり、工学は人類幸福のための学問である。」と紙屋先生のご箴言を常に覚えております。修士の後はやはり博士課程に進学し、PHVに関する研究をより深く進めたいと思います。日本と世界の親善の橋となり、様々な国際学会にて自分の研究成果を発信し（現時点、私の学術論文は日本自動車技術会関東支部にて一本、日本自動車技術会秋大会にて一本予定、プラハで開催するFISITAにて一本予定）、長い目で見て「人類の幸福」である持続可能社会の実現に貢献したいと思っております。

## 「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」へのご支援のお願い

### － 学生のために皆様の力をお貸しく下さい －

会員におかれましては、3月決算を中心に大変なご苦勞をされておられると思います。

早稲田大学校友会から、下記のとおり「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」への支援要請が届きましたので、皆様にご連絡させていただきます。

早稲田大学の学生が、誰一人として不本意にも経済的理由により就学をあきらめることのないよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

校友会支部・稲門会 各位  
早稲田大学校友会の皆様

校友会支部・稲門会ならびに早稲田大学校友会の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染防止のため活動中止等の自粛をお願いしておりますが、温かいご理解とご協力で深く感謝申し上げますとともに、校友の皆様が一致団結して感染防止に努めていただいておりますことを大変誇りに思っております。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大と長期化に伴い、早稲田大学においても、家計支持者の収入激減や学生本人のアルバイト収入の減少等で、就学の継続が難しくなる学生が発生しております。こうした状況の中、早稲田大学では、学生への緊急支援を決定し、あわせて募金活動も開始いたしました。早稲田大学校友会といたしましても、この大学の取組みを全面的に支援してまいる所存です。

早稲田大学の学生が、誰一人として不本意にも経済的理由により就学をあきらめることのないよう、校友会支部・稲門会の皆様そして広く65万人の校友の皆様のご支援とご協力を賜りたく、どうか宜しくお願い申し上げます。

支部・稲門会からも校友の皆様には是非お伝えいただき、ご協力をお願いを広めていただくと幸いです。

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」にご支援をいただける方はこちら  
[https://kifu.waseda.jp/contribution/w\\_supporters-covid19](https://kifu.waseda.jp/contribution/w_supporters-covid19)

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生緊急支援」の概要はこちら  
<https://www.waseda.jp/top/news/69100>

※早稲田大学へのご支援は、寄付金控除の対象となります。

校友の皆様におかれましても、お仕事や生活に大きな影響が出ているかと思えます。今は苦しいことが多いかと存じますが、なんとかこの事態を乗り切って、また元気に校友会・稲門会活動を復活できますことを心から願っております。

今はどうか健康第一でお過ごしくださいませ。

今後ともどうぞ宜しく願いいたします。

2020年4月27日

以上

#### 【校友会担当】

早稲田大学校友会事務局 渡部・宇羽野  
E-mail [tomonkai@list.waseda.jp](mailto:tomonkai@list.waseda.jp)  
<http://www.wasedaalumni.jp/>

#### 【寄付の内容・手続に関すること】

早稲田大学総長室社会連携課 谷岡・玉井  
E-mail [w-supporters@list.waseda.jp](mailto:w-supporters@list.waseda.jp)  
<http://https://kifu.waseda.jp/>

今後とも公認会計士稲門会をどうぞよろしく願いいたします。

## 令和1年 公認会計士試験合格者 (公認会計士稲門会調べ)

下記は、学部が早稲田大学卒業者のみの人数です。

早稲田大学大学院卒(他大学の学部卒業)の合格者が別途26名いますので、学部、大学院全体では早稲田大学出身合格者は131名です。

(主な大学別合格者)

	大 学 名	人数		大 学 名	人数
1	慶應義塾大学	183	6	京 都 大 学	38
2	早 稲 田 大 学	105	6	立 命 館 大 学	38
3	明 治 大 学	81	8	神 戸 大 学	36
4	中 央 大 学	71	9	一 橋 大 学	34
5	東 京 大 学	40	9	法 政 大 学	34

### 編集後記

世界的なコロナ禍の中、会報のお届けが遅れて申し訳ありません。

残念ながら、例年3月下旬から4月上旬に開催される合格祝賀会は取りやめとなりました。また7月上旬の定時総会も中止となりました。そのため、合格者からの寄稿はありません。

寄稿者の皆様、お忙しい中ご執筆ありがとうございます。

今回のコロナ禍で、人は衣食住だけでなくスポーツやエンタメがないと生きていけないことを痛切に感じました。

私事ですが、在学中に知り合った台湾からの留学生(もう40年もお付き合いいただいています!)を4月に高雄に訪問する予定でしたが、やむを得ずキャンセルしました。しかし、現地でも入手が困難なサージカルマスクを送ってくださり、母校を通じたご縁に感謝しています。

NHKの朝ドラで古関裕而さんをモデルにした『エール』を放送。応援歌『紺碧の空』誕生のエピソードに涙腺が緩みました。

#スポーツと音楽を取り戻そう

#紺碧の空

(会報担当 松下八寿彦)

(印刷会社 三共総合印刷株式会社)